

校名：埼玉大学教育学部附属中学校

所在地：〒336-0021

電話番号：048-862-2214

記載日：平成28年6月20日

記載者：大井 敏彰

記載者役職：副校長

貴校の校風、おおまかな特色について：

本校は浦和の中心部に位置しながらも、別所沼公園の西、鹿島台の上の緑豊かな場所に立地している。また、学校が閑静な住宅街の中に位置しており、周辺の地域はとても落ち着いた。本校は、全12学級、全校生徒数517名の中規模校である。通学区域は登下校時の安全面を考慮して、片道一時間以内で通学することができる、さいたま市・川口市・戸田市・蕨市に限定している。多くの生徒が交通機関を利用しながら徒歩通学をする中、約1割の生徒が学校が定めた区域から自転車通学をしている。



本校では、「正しい判断力とたくましい実践力をもった自主的人間の形成」を学校目標として、普段の授業を中心としながら、生徒会活動、部活動、学校行事等にも力を注ぎ、学習指導・学校行事・生徒指導のバランスを図りながら生徒一人一人の「生きる力」を育てている。

また本校では帰国生徒の受け入れも行っている。海外から編入した生徒は、「混入方式」で集団への適応を図りながら、個々のニーズに応じて未習内容の補充や海外経験を踏まえた個性の伸長に努めている。また、帰国生徒の展示発表や校外学習会もあり、これらの取組も充実している。

PTA活動も大変盛んである。学年・学級PTAの際の参加率は、おおむね90%以上である。PTAは厚生研修部、補導育成部・文化広報部の3部に分かれており、それぞれ研修旅行、教育講演会の立案・実施、年2回の広報誌の編集・発行、年2回の登下校指導等、活発に活動しており、3年間継続して理事を務めてくださる保護者も多数おり、学校にも大変協力的である。

貴校の卒業生の活躍状況について：

①追跡調査はしていない。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

①追跡調査はしていない。

②前現教官研究会があり、毎年前教官、前教員の勤務先等の情報は把握している。

③本校教員が附属中学校から異動する際、公立中学校だけでなく、埼玉県教育局、南部教育事務所、県立総合教育センター、さいたま市教育委員会、各市町村教育委員会等に転出するものも多く、各所で指導的な役割を果たしている。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

◇ ICTを活用した授業実践

平成25年度末、教育実習生への指導に活用するよう、ICT機器が導入された。iPad80台、電子黒板3台、各教科教室12部屋に黒板の上にプロジェクタが設置され、各教科の学習指導を中心に積極的に活用している。また各階フロアや特別教室では生徒用のwifi環境も構築され、iPadを利用した調べ学習なども行われている。導入から3年経った現在、普通の授業の中で頻繁に活用されている他、教育実習生の授業においても積極的に導入されている。

【実践例】

1 iPadで動画再生（理科）

3年化学分野において、銅粉を加熱し酸化する実験の様子を撮影し、より正確なデータを得るための実験方法の改善案について、動画を視聴しながら話し合う。



2 電子黒板を活用して、作品のイメージを膨らませる。（美術）

3年立体作品において、作品の原案を電子黒板に投影し、電子黒板上で投影した作品に工夫を加えながら今後の製作について見通しをもたせ、作品へのイメージを膨らませる。



4 プロジェクタと黒板の併用（国語、社会、英語等）

多くの教科で、日常的にプロジェクタを活用し、授業を展開している。

- 板書との併用
- 資料提示
- タイマー 等



【評価】

ICT機器が導入されてから、教科の実態に併せてiPadや電子黒板を活用する授業が急増した。また、プロジェクタを普通の授業で板書と併用して利用する授業も増え、教師がICTを使うことへの抵抗感も皆無と言っても過言ではない状況にある。今後、各公立学校でのICTの活用が普及するにつれて、本校での授業実践は先導的な取組として展開できるものであると考える。

◇学校行事と関連づけた総合的な学習の時間

本校では、総合的な学習の時間を学校行事と関連づけて深い学びを実現させている。主には2年生で実施する志賀高原林間学校、3年生で実施する京都・奈良修学旅行の中に探究的な学習を位置づけ、教員が提示するテーマに基づいて、生徒が個々のテーマを設定し、事前学習、現地学習、事後学習といった流れで、学びを深めていく。

そのためには、次の3つの工夫をしている。

- ①宿泊学習の中の1日を6時間扱いの授業日と位置づけ、探究的な学習を展開する。
- ②旅行者と連携し、生徒に現地の方々との深く関わる体験場所を提供する。
- ③それぞれ学んだことをテーマに迫るようにまとめを行い、発表する。

【実践例】

2年：志賀プロジェクト「埼玉県と長野県を比べて私自身で考える」(H26)

コース一覧：自然Ⅰ（動物・昆虫）自然Ⅱ（植物）歴史Ⅰ（古代～中世）歴史Ⅱ（近代～現代）
産業（農業）文化Ⅰ（地域文化）文化Ⅱ（長野五輪）



歴史Ⅱ（松代の防空壕見学）

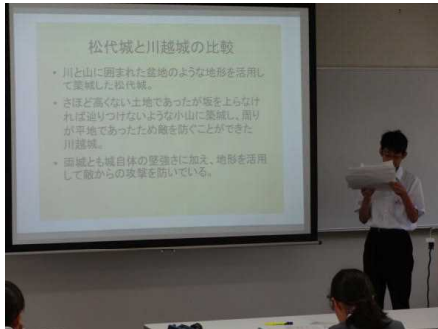


自然Ⅰ（クサツヨウの採集）



地域文化（湯田中温泉の清掃）

発表例：埼玉県と長野県を比べながら考えたことをまとめ、クラス内発表会を行った後、優れた発表を取り上げ、全体発表会を行った。



3年：日本文化探究講座「日本人としての私を考える」(H27)

コース例：「京ちゃんは今までなぜ受け継がれてきたのか」「京印章マニアになろう！」
「華道を通し、先人たちが築き上げてきたものと考え方を探る」など（全36テーマ）



京ちゃん絵付け体験



華道体験



京印章づくり

発表例：保護者にも案内を出し、行動班ごとに深い学びの成果を発表した。

日本文化探究講座 研究発表会 ポスター掲示場所

班	発表内容	発表時間	発表場所	班	発表内容	発表時間	発表場所
1	日本文化探究	10:00-10:15	101	11	日本文化探究	10:00-10:15	101
2	日本文化探究	10:15-10:30	102	12	日本文化探究	10:15-10:30	102
3	日本文化探究	10:30-10:45	103	13	日本文化探究	10:30-10:45	103
4	日本文化探究	10:45-11:00	104	14	日本文化探究	10:45-11:00	104
5	日本文化探究	11:00-11:15	105	15	日本文化探究	11:00-11:15	105
6	日本文化探究	11:15-11:30	106	16	日本文化探究	11:15-11:30	106
7	日本文化探究	11:30-11:45	107	17	日本文化探究	11:30-11:45	107
8	日本文化探究	11:45-12:00	108	18	日本文化探究	11:45-12:00	108
9	日本文化探究	12:00-12:15	109	19	日本文化探究	12:00-12:15	109
10	日本文化探究	12:15-12:30	110	20	日本文化探究	12:15-12:30	110



【評価】

前述の工夫に沿って考えると、この取組を通して実現したことは次の3点である。

- ①学校行事における授業時数の確保
- ②旅行者との連携を生かした深い学びの実現（企業との協働）
- ③課題を解決するための主体的・協働的な学びの実現（アクティブ・ラーニング）

本校では、総合的な学習の時間と宿泊行事を関連づけることで、教科書では学ぶことができない課題に対して、生徒が主体的・協働的に学び、長期的に課題を解決するための場を提供できたと考えている。今後、本校での授業実践は先導的な取組として展開できるものであると考える。

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

- ①伝統校…附属幼稚園、小学校とともに、さいたま市周辺の地域とともに歩み、一目置かれている学校である。教員が変わっても校風や学校行事等は継続しているものが多く、公立中学校のような自由度は少ないものの、規律正しく何事にも全力で取り組む校風への信頼も厚い。そのため親子2代に渡って、附属中学校を巣立っていく家庭も少なくない。
- ②教科指導の中心校…本校の教員は各教科指導のスペシャリストであるとともに、本校の性格として「県内の中等普通教育関係の諸活動に協力する」ために、次の性格を担っている。
 - ・指導的な役割…県の教育事務所から指導課訪問の指導者、県や市の教育センターや年次研修の指導者、合唱祭や絵画コンクールの審査員、県刊行物への執筆活動など、教科指導に関する依頼が多くあり、地域の教科指導において指導的な立場で貢献している。
 - ・先導的な役割…（本来校務ではないが）本校では全ての教科において、県教科団体の事務局や幹事をもっている。そのため、各教科団体の事業の推進をはじめとして、各教科団体の行事運営、調査問題の作成など、県内各教科団体の活動を先導する立場で貢献している。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

本校は、教科指導のスペシャリストが日々切磋琢磨しています。また、県で各教科団体の事務局や幹事を担っていることで、教科指導において先導的、指導的な役目を果たしながら、埼玉県・さいたま市の教育に貢献しています。何より、多くの先生方と関わりながらも、日々の指導をおろそかにすることなく、学校教育目標の実現に資する教育活動に努める教師集団は、これからの埼玉教育の財産であるといっても過言ではありません。

恵まれた教育環境のもと、力量のある教師集団が質の高い教育を展開し、生徒一人一人の力を育てていくところに、附属中学校の存在意義があるのではないかと思います。